公共交通・国スポ・障スポ大会対策特別委員会　県外行政調査

１　調　査　日　　令和６年10月31日（木）～11月１日（金）

２　調査の概要

10月31日（木）

（１）カンセキスタジアムとちぎ（栃木県宇都宮市）

栃木県は、令和４年、第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」と第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」を開催した。総合開閉会式が行われた主会場の「カンセキスタジアムとちぎ」は、陸上競技場として日本陸上競技連盟第１種公認、サッカー場としてＪリーグ施設基準をクリアし、Ｊ２所属の栃木サッカークラブのホームスタジアムとしても使用されているほか、同施設内の「とちぎスポーツ医科学センター」では、体力測定による課題等の把握、練習や試合でのパフォーマンス分析など、アスリートの競技力向上につながるサポートを行っている。

今後の委員会活動の参考とするため、国体・大会後の総括やその後のスポーツ振興、整備された施設の活用状況等について調査を行った。

（２）交通未来都市うつのみやオープンスクエア、ＬＲＴ車両（栃木県宇都宮市）

栃木県宇都宮市では、コンパクトなまち（拠点）が公共交通でつながった「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を進めており、拠点間を結節する公共交通ネットワークの構築のため、芳賀・宇都宮ＬＲＴの整備を行い、令和５年８月26日に、国内の路面電車としては75年ぶり、全線新設ＬＲＴとしては国内初となる「芳賀・宇都宮ＬＲＴ」を開業した。

本委員会では、誰もが移動しやすい交通環境の整備の手法検討の参考とするため、ネットワーク型コンパクトシティ実現に向けた交通政策の取組等について、ＬＲＴの設備や利用状況の調査を行った。

11月１日（金）

（３）茨城県議会（茨城県水戸市）

茨城県では、令和元年に、第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体」を開催し、男女総合優勝・女子総合優勝という成績を収め、天皇杯・皇后杯を獲得した。

また、学校の運動部活動は、スポーツ振興を大きく支えてきたが、少子化が進展する中、従前と同様の運営形態による維持は困難になってきており、持続可能な部活動環境を整備する必要があるところ、茨城県は、今年度、スポーツ庁が進める地域スポーツ環境の整備に先導的に取り組む重点地域に指定されたことから、県が主体となって推進会議を設置し、市と協力して、課題解決に向けて取り組んでいる。

今後の委員会活動の参考とするため、機運醸成等大会の総括や大会後のスポーツ振興等について調査を行うとともに、運動部活動の運営に関する取組についての調査を行った。